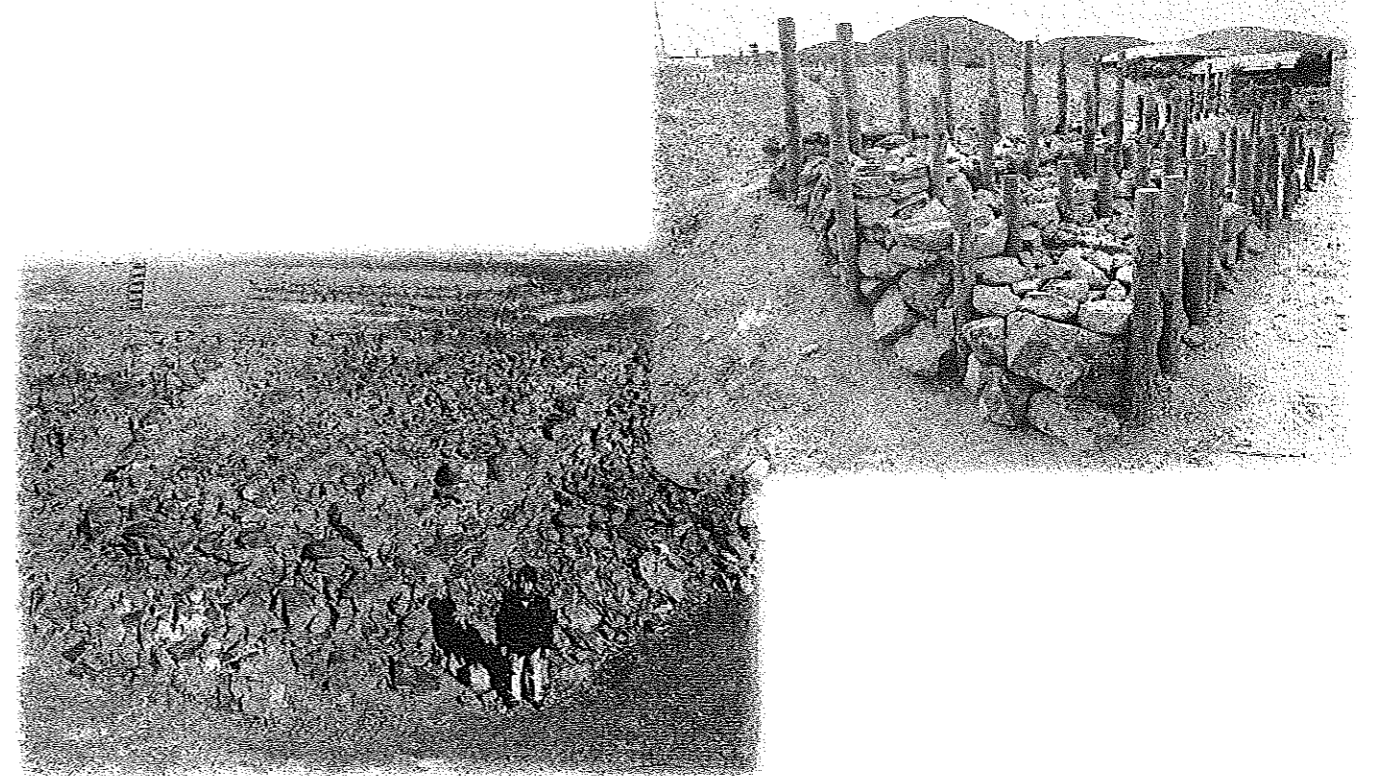


豊臣秀吉と宇治



プログラム

- 13:30～ 開会あいさつ
- 13:40～ (報告) 歴史まちづくり推進課 大野 壽子
「史跡宇治川太閤堤とその整備」
- 14:15～ 休憩
- 14:30～ (講演) 大阪城天守閣前館長 中村 博司 氏
「太閤堤構築の歴史的意義
- 豊臣秀吉晩年の政権構想をめぐって -」
- 16:00～ ディスカッション
- 16:30～ 閉会

太閤堤築造に関わった大名たち



豊臣家



前田家



徳川家



織田家

日時 : 平成 25 年 10 月 20 日 (日) 13:30～16:30

場所 : 宇治市生涯学習センター 第1ホール

「太閤堤」構築の歴史的意義

—豊臣秀吉晩年の政権構想をめぐって—

講師：中村博司

(大阪城天守閣前館長)

1. 豊臣秀吉の行なった主な土木工事 (= 普請) 一覧【表1】

年次	事件	京都	大坂	その他の地方
天正2年(1574)				長浜城(近江)
〃 8年(1580)	1.三木合戦終る			4?姫路城(播磨)
〃 10年(1582)	6.本能寺の変	7.山崎城		5.高松城水責め(備中)
〃 11年(1583)	4.賤ヶ岳合戦	9.妙顕寺城	9.大坂城(本丸)	
〃 12年(1584)	3.小牧長久手役	山崎城破却	8.本丸に秀吉移徙	
〃 13年(1585)	7.関白任官			4.太田城水責め(紀伊)
〃 14年(1586)	6.四国攻め	2.聚楽第	2.大坂城(二之丸)	
〃 16年(1588)		5.東山大仏(方広寺)	3.二之丸完成	
〃 17年(1589)	5.鶴松誕生	1.淀城修築		
〃 18年(1590)	7.小田原攻め→天下統一			4.石垣山一夜城(相模)
〃 19年(1591)	8.鶴松死去. 12. 秀次、関白任官	1.御土居堀		10.名護屋城(肥前)
〃 20年(1592) =文禄元年	5.第1次朝鮮出兵 (文禄の役)	8.伏見城(指月城)		
文禄2年(1593)	8.秀頼誕生			
文禄3年(1594)		2.伏見城(惣構)、3. 淀城破却、8.宇治川堤・小倉堤普請	2.大坂城(惣構)	
〃 4年(1595)	7.秀次切腹	8.聚楽第破却		
〃 5年(1596) =慶長元年	7.慶長大地震	7.伏見城(木幡城) 8.淀川堤普請	8.淀川堤普請	
慶長2年(1597)	2.第2次朝鮮出兵 (慶長の役)	禁裏東に「新城」		
〃 3年(1598)	8.秀吉死去	6カ. 伏見城(普請)	6.大坂城(新曲輪)	6.多聞城(大和)
〃 4年(1599)			2.大坂城(普請)	
〃 5年(1600)	9.関ヶ原合戦	8.「新城」破却	5.大坂城(普請)	

※年月は、原則として事件の起こった年月・工事の開始年月を表わすが、そうでないものも含まれる。

2. 城郭普請から見た豊臣秀吉の政権構想(1)

●天正11年4月、賤ヶ岳合戦に勝利した秀吉は、6月に大坂本願寺跡に入って天下統一事業の拠点と定め、新たな築城工事をめざした!

①天正11年の「大坂城(本丸)普請と妙顕寺城普請」

〈大坂城(本丸)〉→【図2】

○普請開始=天正11年9月1日→「今日より大坂普請之由申了」(『兼見卿記』)

・普請完成=同年11月5日頃→「大坂事、五畿内之廉目能所ニ候之間、居城相定、念を入普請申付、悉出来候之事、」(羽柴秀吉書状、宛先不明)

・秀吉入城=天正12年8月→「八日、大坂新造へ筑州移徙云々。」(『宇野主水日記』)

〈妙顕寺城〉→【図4】

○普請開始=天正11年9月11日頃→「妙見寺筑州屋敷ニ成、寺中悉壊取云々、近日普請在之云々」(『兼見卿記』同日条)

・秀吉入城=同年11月9日→「羽筑州へ為礼罷出、今度玄以致普請妙見寺宿所云々、直罷向、…城中へ各罷向、次第筑州対面、」(『兼見卿記』)

★大坂の城普請と京都の城普請は並行して進められた。

京都ニハ玄以宿所、元妙願(顯)寺ト云寺也。ソレニ要害ヲカマヘ、堀ヲホリ、天主ヲアゲテアリ。秀吉在京之時ハ、ソレニ御座候也。常ハ玄以ノ宿所也、(『宇野主水日記』天正13年7月6日条)

※

●天正13年7月、関白に就任した秀吉は、新たな「関白公館」を必要とした!

②天正14年の「大坂城(二之丸)普請と聚楽第普請」

〈大坂城(二之丸)〉→【図2】

○普請開始=天正14年2月23日→「当月從廿三日大坂普請申付候」(一柳直末宛2月17日付秀吉朱印状写)、大坂城石運び掟書(加藤嘉明宛秀吉書状、天正14年2月23日付)

・完了時期=「大坂普請モヤウヤウ周備」(『多聞院日記』天正16年3月晦日条)

〈聚楽第〉→【図4】

○普請開始=「聚楽第石運び掟書」(一柳直末宛秀吉書状、天正14年2月15日付)

・入城=「聚楽へ殿下御衆御移徙之間、見物」(『言経卿記』天正15年9月13日条)

★このたびも大坂の城普請と京都の城普請は並行して進められた。

3. 城郭普請から見た豊臣秀吉の政権構想 (2)

●秀吉、関白職を甥の秀次に譲り、隠居して伏見に「隠居所」を築く！

〈天正 20 年（文禄元年）の伏見城普請〉

○普請開始＝「京都伏見ニ太閤隠居所立之、大篇之地取在之云々、事々敷儀也」(『多聞院日記』天正 20 年 8 月 4 日条)

・秀吉入城＝「伏見へ太閤昨日御越ト也、」(『時慶記』文禄 2 年閏 9 月 21 日条)

※

●文禄 2 年 8 月 3 日、次子お拾い（秀頼）が生まれ、関白秀次と不和になる！

③文禄 3 年の「大坂城（惣構）普請と伏見指月城（惣構）普請」

〈大坂城（惣構）〉

○普請開始＝文禄 3 年 2 月 10 日→「於大坂惣構堀普請、従来月十日被仰付之条、令用意人数千人可召上候、」(正月 19 日付宮部長熙宛秀吉朱印状写)

・完成年月は不明。ただし、この工事で日本最大の城郭が完成した→【図 2】

〈伏見城（惣構）〉

○普請開始＝文禄 3 年 2 月 10 日→「於伏見惣構堀普請、従来月十日被仰付之条、令用意人数四千人召連可罷上候、」(正月 19 日付上杉景勝宛秀吉朱印状)

★このたびも大坂の城普請と京都の城普請は並行して進められた。

※

●関白秀次の孤立化、失脚を図る

〈文禄 3 年、淀城の破却と伏見への移築〉

・淀城→天正 17 年正月、鶴松を身ごもった側室茶々のために修築。

・破却開始＝文禄 3 年 3 月、遺材は伏見へ→『駒井日記』同年 3 月 18 日条

〈文禄 4 年、関白秀次の失脚と聚楽第の破却〉

※

〈文禄 5 年（慶長元年）の伏見（木幡）城普請〉

●同年 7 月 12 日の「慶長の大地震」で指月城が崩壊、秀吉はすぐ木幡の地に再築を命じた。「(7 月) 十四日、伏見山山頂ニ御繩張被仰付、奉行衆罷越」(『当代記』)

※

④慶長 3 年の「大坂城（馬出曲輪）普請と伏見城普請」

●大坂城主に嗣子秀頼を置き、秀吉が伏見城で後見する体制を目指した！

〈大坂城普請〉

○普請開始＝慶長 3 年 6 月 10 日→「大坂普請之事 (中略) 右人数召寄自六月十日普請可申付候也 五月十七日 (秀吉朱印)」(宮部長熙宛秀吉朱印状)

〈伏見城普請〉

○普請開始＝不明だが、大坂城と同じ 5 月 17 日付で発令(「伏見石垣普請」尊経閣文庫蔵『古蹟文徴』八) されている。

★このたびも大坂の城普請と京都の城普請は並行して進められた。

4. 「大坂—京都」をつなぐ“城郭ネットワーク”という構想

①在京時の宿舎としての妙顕寺城＝【図 1-1】

②関白公館としての聚楽第築城＝【図 1-2】

「京都内野辺ニ、関白殿ノ御殿タテラルベキニ付而、二月下旬ヨリ諸大名在京シテ大普請ハジマル也。大坂ニハ中国之大名ノボリテ普請アリ。人足七八萬、又ハ拾萬人バカリアルベシト云々」(『宇野主水日記』天正 14 年 3 月 30 日条)

③側室茶々の懐妊により、淀城修復＝【図 1-3】

④秀次の関白任官と秀吉の伏見隠居城としての伏見築城＝【図 1-4】

⑤お拾い（秀頼）の誕生、関白秀次失脚と伏見城改造＝【図 1-5】

「伏見(三カ)之丸之石垣・同惣構堀。大坂惣構堀三ヶ所江三分而被仰付由」(『駒井日記』文禄 3 年正月 20 日条)

⑥死の直前まで大坂城と伏見城の改造・強化を目指した＝【図 1-6】

◎秀吉は、豊臣家の本城である大坂城と京都の諸城郭を政権を支える両輪と考えて、常にそのネットワーク(二元的支配構造)を維持しようとした。

5. 「宇治川太閤堤」の意義(秀吉晩年の政権構想)

○伏見城普請と並行して進められた淀川筋における大規模な土木工事

〈淀城の破却と伏見への移築〉

〈文禄 3 年の川堤普請と宇治橋撤去〉→【表 2】・【図 3】・【図 4】

・「石川左衛門大[夫...]御普請初[...]」(『家忠日記』3 月 12 日条)→普請初め？

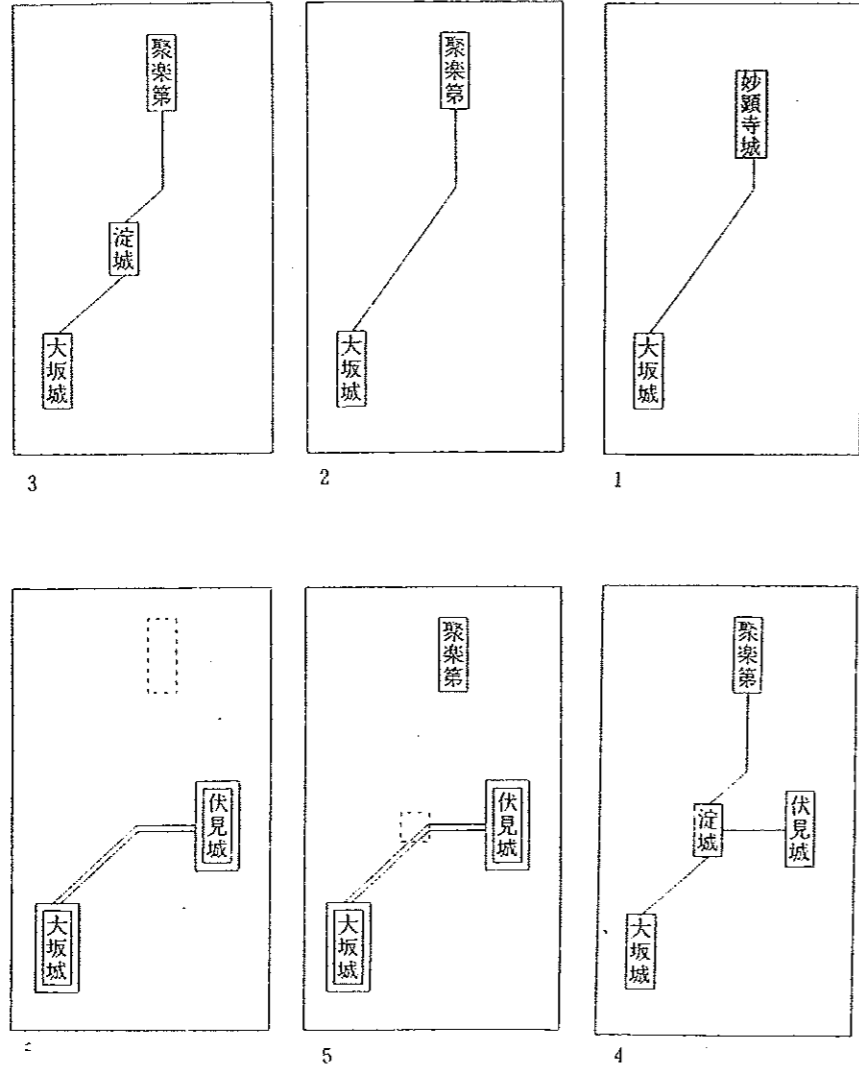
※石川康通(左衛門大夫)は徳川家康の家臣。下総成東城主。

※松平家忠は徳川家康の重臣で、武蔵忍城主。土木工事の巧者。

- ・「淀堤つき（築き）候」(『家忠日記』8月8日条)
 - ・「淀堤出来、真木嶋へ人数越候、」(『家忠日記』8月9日条)
 - ・この年、織田秀信が小倉―伏見間の新堤を築造し、宇治橋を破却(『宇治里袋』)
- 淀堤・榎島堤・藪場堤の構築は、宇治橋下流から3本の川筋で巨椋池に注いでいた宇治川の流れを一変させた。宇治橋を破壊して新たに小倉堤を大和街道とし、伏見城下町との接点の豊後橋架橋は、「山城盆地の南北交通はすべて小倉堤―豊後橋の一線上に集約されることとなった」(足利健亮氏)→聚楽第(豊臣秀次)と大和郡山城(豊臣秀保=秀次弟)に対する牽制効果絶大と評価できる。

〈文禄5年(慶長元年)の川堤普請〉

- ・毛利3家が担った堤構築=「秀吉ヨリ(毛利)輝元公・(小早川)隆景公・(吉川)広家公へ大坂ヨリ伏見迄、左右ノ堤経営ヲ命ゼラル」(『吉川家譜』)



【図1. 豊臣秀吉による城郭ネットワーク】

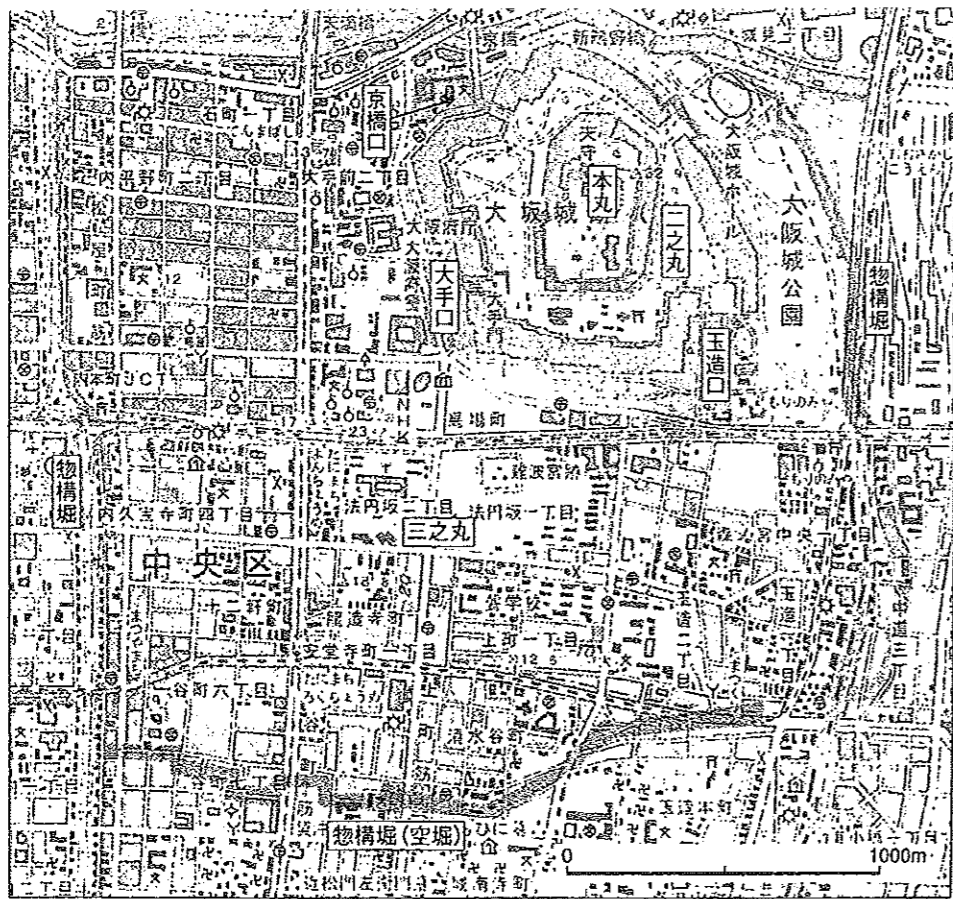
表1 『家忠日記』に見る伏見普請関係記事

◆文禄2年 9月9日	普請奉行来より、京都伏見御普請ニ一萬石ニ入足廿四人つかつかへし候へ之由申 候、	同日普請候、
◆文禄3年 1月10日	伏見御普請之儀ニ、三浦右衛門八かしつ(上代)へ越候、	同日普請候、
◆文禄3年 1月30日	自江戸、京都御普請人数百計のつもりにてあたり候由申来候、	同日普請候、
◆文禄3年 2月1日	京都御普請ニ付而、各よりあい候間、早々越し候へ之由江戸より申来候、	同日普請候、
◆文禄3年 2月4日	御普請成合柳原式部所へ越候、ふしミ御普請を万石ニ人数武百のつもりにて 自身越候へ之由候、	同日普請候、
◆文禄3年 5日	江戸へ飛脚越候、ふしミ御普請昨日之分にて手前式百人づつもりにて候、	同日普請候、
◆文禄3年 8日	江戸へ飛脚越候、ふしミ御普請昨日限き候、江戸よりふしミ御普請衆十六日 ニ可越由申来候、	同日普請候、
◆文禄3年 10日	ふしミ御普請延候由かいとうせつ候、	同日普請候、
◆文禄3年 11日	ふしミ御普請延候と申事せつニ面候、	同日普請候、
◆文禄3年 3月2日	京へこし候、御普請小慶場伏見にて明日わたり候へん由奉行衆申候、	同日普請候、
◆文禄3年 3日	伏見へ小慶場請取ニ越候、御扶持ももり出へるとりニ越候、	同日普請候、
◆文禄3年 12日	石川左衛門大(……)御普請初(…)	同日普請候、
◆文禄3年 13日	同普請候、	同日普請候、
◆文禄3年 14日	大納言様御普請見舞ニこし候、	同日普請候、
◆文禄3年 15日	同普請候、	同日普請候、
◆文禄3年 16日	同普請候、	同日普請候、
◆文禄3年 17日	大納言大坂ヨリ伏見へ御成候、大納言様も京より、普請見舞ニ越候、	同日普請候、
◆文禄3年 18日	大納言御普請御らんし(候カ)	同日普請候、
◆文禄3年 19日	同[普請候、カ]	同日普請候、
◆文禄3年 20日	[……]	同日普請候、
◆文禄3年 24日	○以下、23日條マテ關伏せり、	同日普請候、
◆文禄3年 25日	同普[請候、カ]	同日普請候、
◆文禄3年 26日	太閤様大津へ御[入候カ]、	同日普請候、
◆文禄3年 27日	同普請、大名衆へつとうふふる舞候、	同日普請候、
◆文禄3年 28日	同普請候、石川左衛門大夫ところニへつとうふふる舞候、	同日普請候、
◆文禄3年 29日	同普請候、	同日普請候、
◆文禄3年 4月5日	御普請奉行衆舞候、豊願寺へ非時ふる舞ニて越候、紹巴、昌此、玄阿へも 禮ニ越候、	同日普請候、
◆文禄3年 6日	大納言御普請所ニ御成候、見物候、御車こし三ツにて御ひかせ候、	同日普請候、
◆文禄3年 8日	同普請候、	同日普請候、
◆文禄3年 16日	同普請候、	同日普請候、
◆文禄3年 17日	伏見へ帰候、	同日普請候、
◆文禄3年 18日	伏見へ帰候、	同日普請候、
◆文禄3年 20日	同普請候、	同日普請候、
◆文禄3年 21日	同普請候、	同日普請候、
◆文禄3年 22日	同普請、	同日普請候、
◆文禄3年 5月2日	○以下五月一日條マテ關伏せり、	同日普請候、
◆文禄3年 3日	同普請、	同日普請候、
◆文禄3年 4日	同普請候、	同日普請候、
◆文禄3年 15日	○以下十四日條マテ關伏せり、	同日普請候、
◆文禄3年 17日	同普請候、	同日普請候、

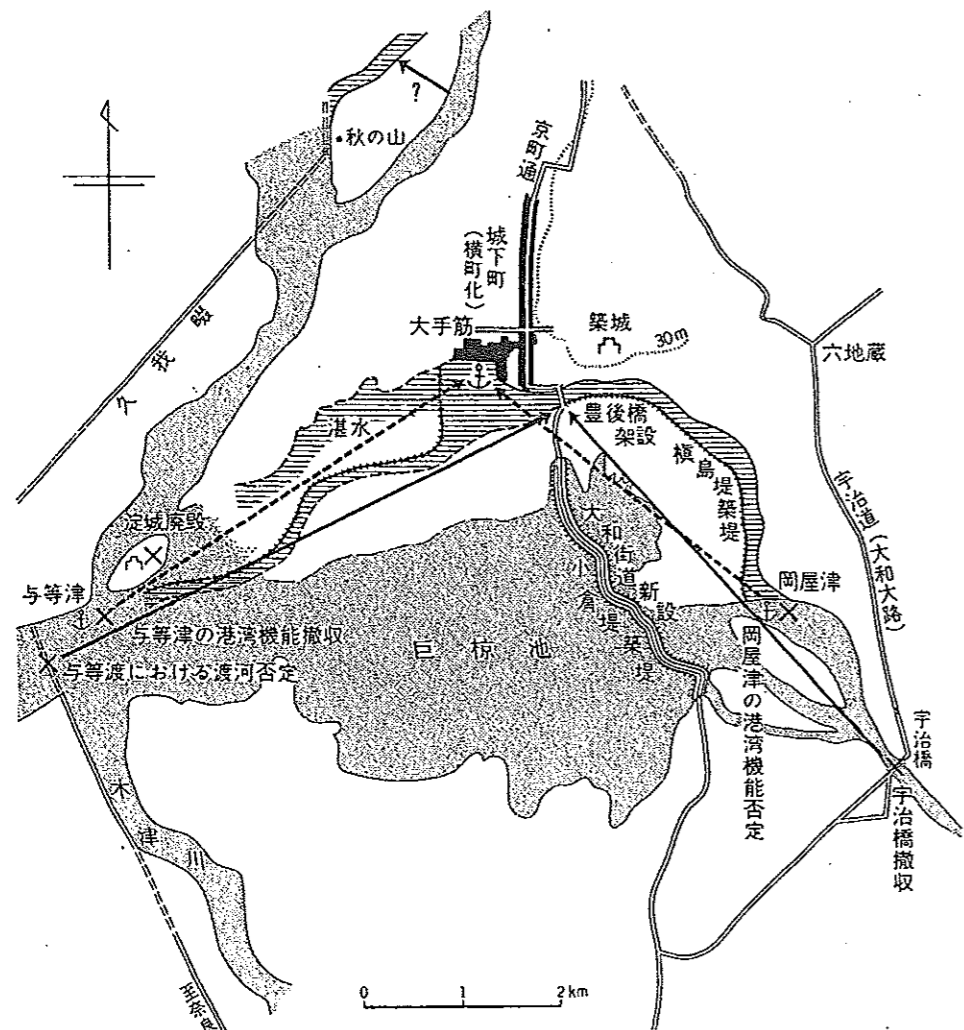
【表2】:『家忠日記』に見る伏見普請関係記事

(拙稿「秀吉の大坂城拡張工事について―文禄三年の惣構普請をめぐって―」より)

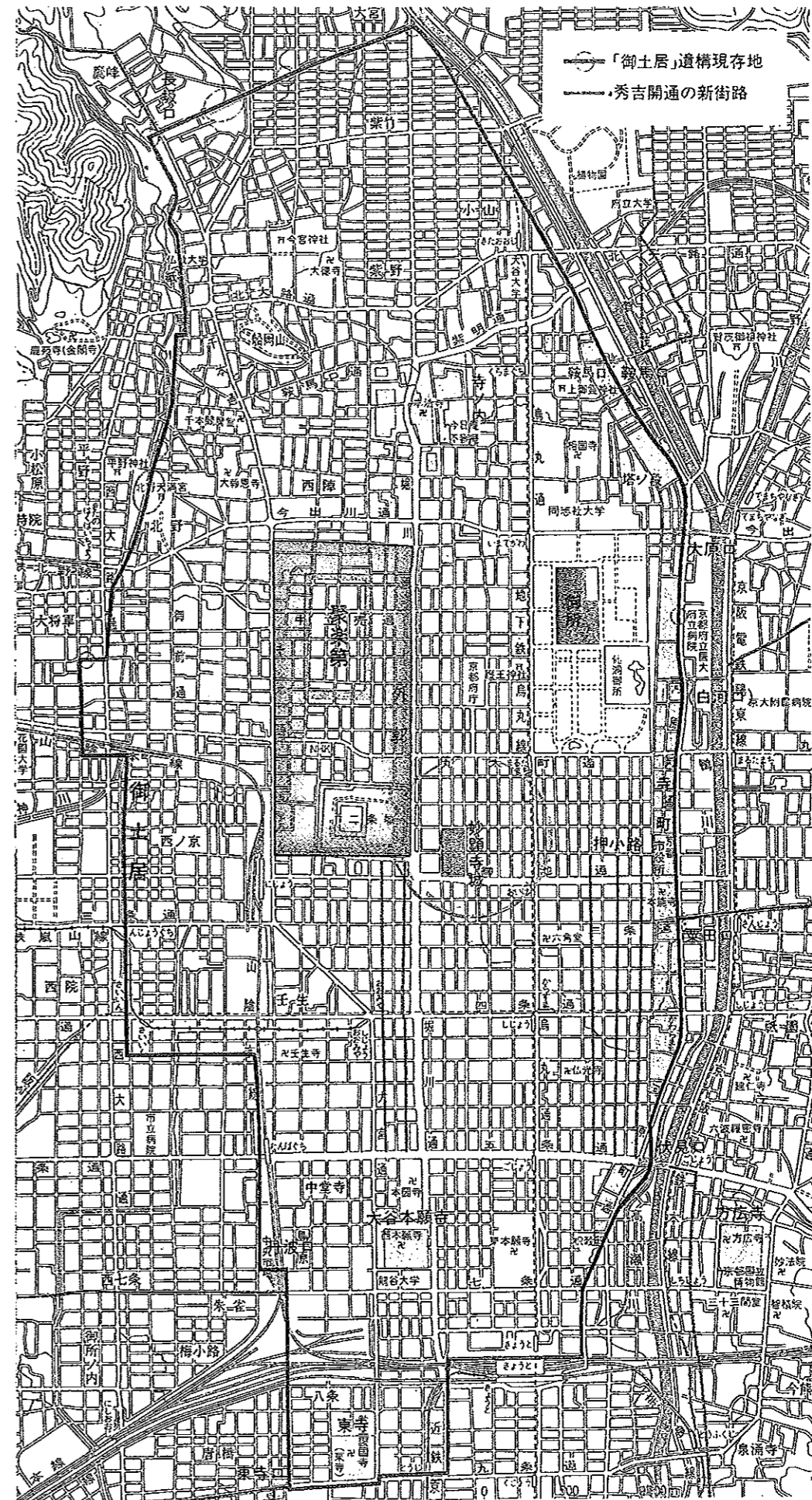
※竹内現三編『増補史料大成』第19巻(家忠日記)臨川書店(1984年)による。



【図2】：慶長5年（1600）頃の大坂城全体図（拙著『天下統一の城 大坂城』より）



【図3】：「秀吉の伏見構想」（『宇治市史』第2巻より）



【図4】：妙頭寺城と聚楽第

（足利健亮編『京都歴史アトラス』中央公論社、1994年より）

史跡宇治川太閤堤跡の調査と整備

宇治市歴史まちづくり推進課

1. 太閤堤とは

豊臣秀吉が伏見城築城に伴い、巨椋池中や淀川に堤を造り、宇治川流路を付け替えた、大規模治水工事の総称

文禄3(1594)年 淀堤を築堤

8月～ 宇治から向島までの6キロに及ぶ榎島堤、そして小倉堤を築堤

文禄5(1596)年 大阪に向かって延長27キロに及ぶ文禄堤(淀川堤防)を築堤

2. 太閤堤築堤による水上・陸上交通網の整備

宇治川・淀川の川筋をととのえ、伏見港への水運を整備

小倉から伏見へ向かう大和街道、伏見から大坂城へ向かう京街道の整備

→伏見への交通網の充実

3. 太閤堤の現在は・・・

淀堤の一部が現在の淀川右岸堤防として・・・

宇治市内では、榎島堤が宇治川左岸堤防として継承され、

小倉堤は三軒家と西目川に一部が残る以外は失われる。

4. 宇治川太閤堤跡の発見

平成19年 土地区画整備事業に伴う発掘調査で、太閤堤の護岸施設を発見

新聞報道 現地説明会に1600人もの参加

「太閤堤を守る会」をはじめとする市民の保存運動

5. 宇治川太閤堤跡の発掘調査

規模 全長400m以上

(京阪宇治駅から菟道稚郎子墓の西側を通過して現在の堤防の下まで)

構造 場所によって構造が異なる護岸(石積み護岸・杭止め護岸)に水の流れを制御する水制(石出し・杭出し)がつく

使用材料 宇治川上流の山々でとれる粘板岩と松杭が中心

遺存状況 洪水などによって運ばれた土砂に埋もれたため、当時の姿をよく残す。

6. 史跡指定

豊臣秀吉が伏見城築城を契機として行った淀川水系の治水・交通に関する施策と当時の土木技術を具体的に示す遺跡として、平成21年7月23日付けで22584.08㎡が国史跡に指定

7. 史跡宇治川太閤堤跡の整備計画

宇治にとっての太閤堤・・・

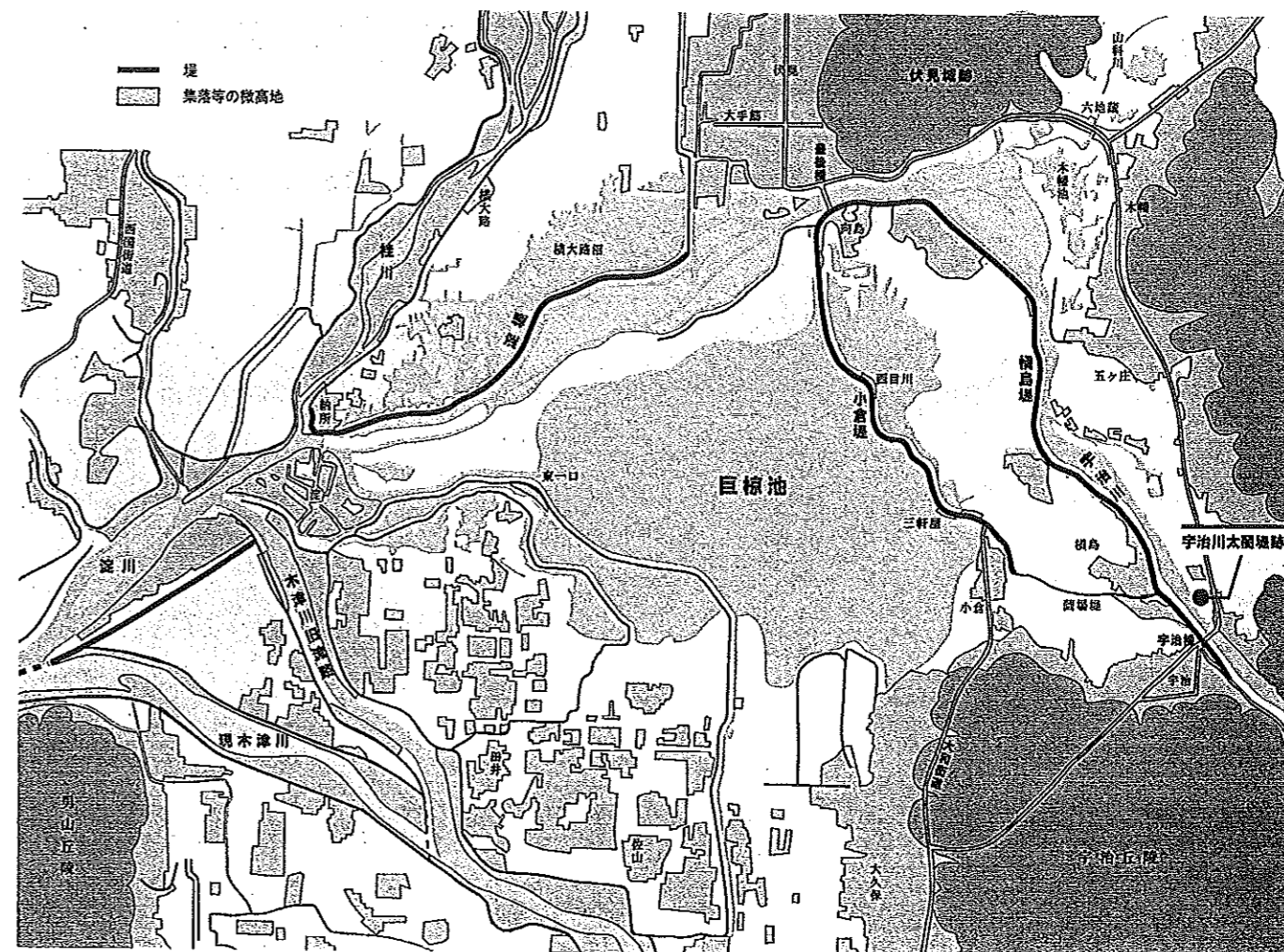
- ・宇治川の流れと現在の堤防の芯になっている榎島堤
- ・小倉堤は失われても、小倉から向島のルートはいまなお現役の大和街道
- ・豊臣秀吉と宇治茶と太閤堤

まわりを少し見てみれば・・・

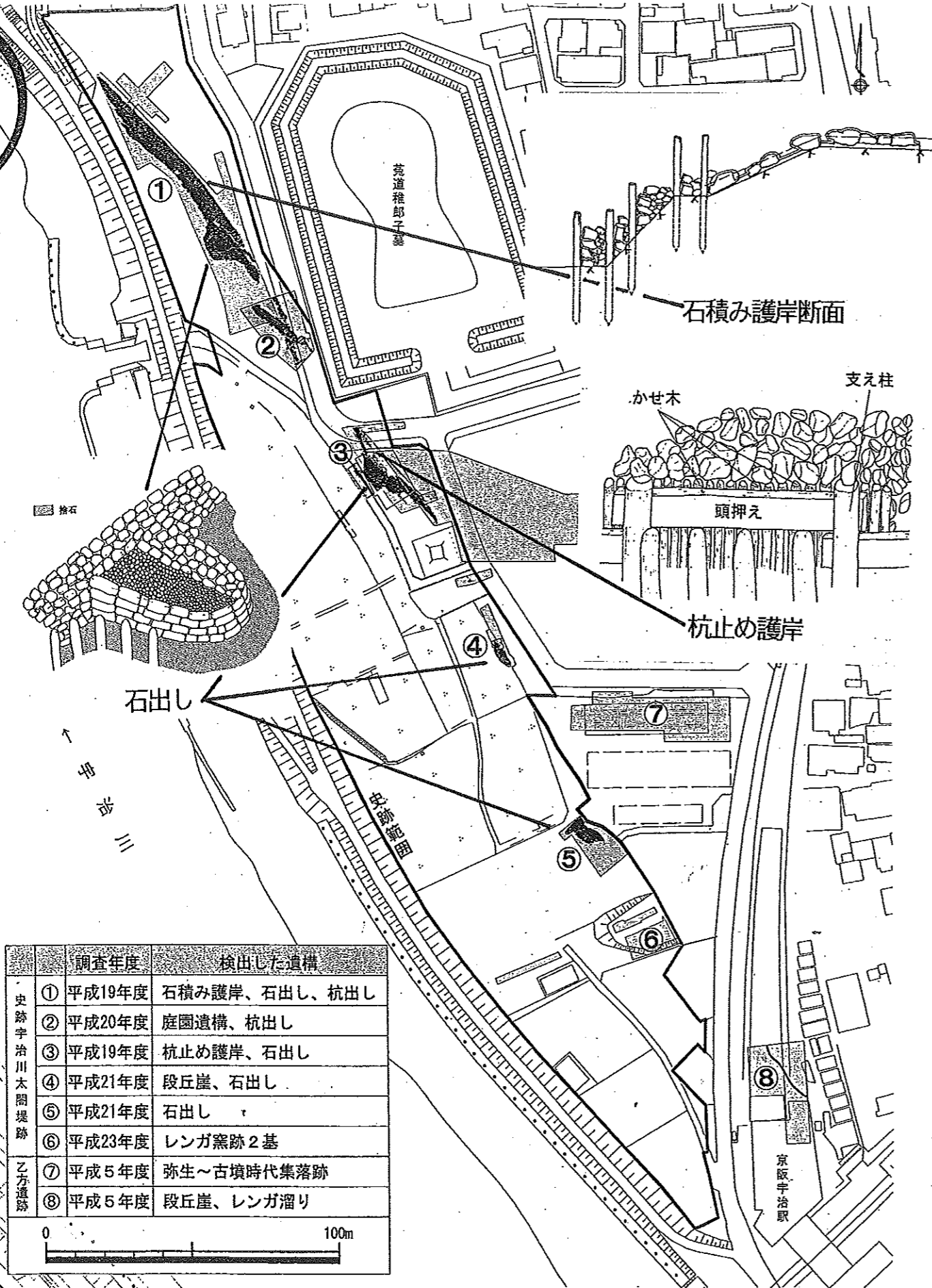
- ・宇治の歴史を語る立地(古代の菟道稚郎子から現在のお茶のまち宇治まで)
- ・世界遺産である平等院や宇治上神社によって観光客で賑わう宇治の中心部

公園面積：2.4ha(史跡ゾーン1.3ha、交流ゾーン1.1ha)予定

→史跡の保存・活用に留まらず、観光地としての宇治のブランド力を高め、地域の発展につながる整備を行うとともに、郷土の歴史・文化をはぐくむ環境整備を行う計画です。



宇治川太閤堤跡の発掘調査

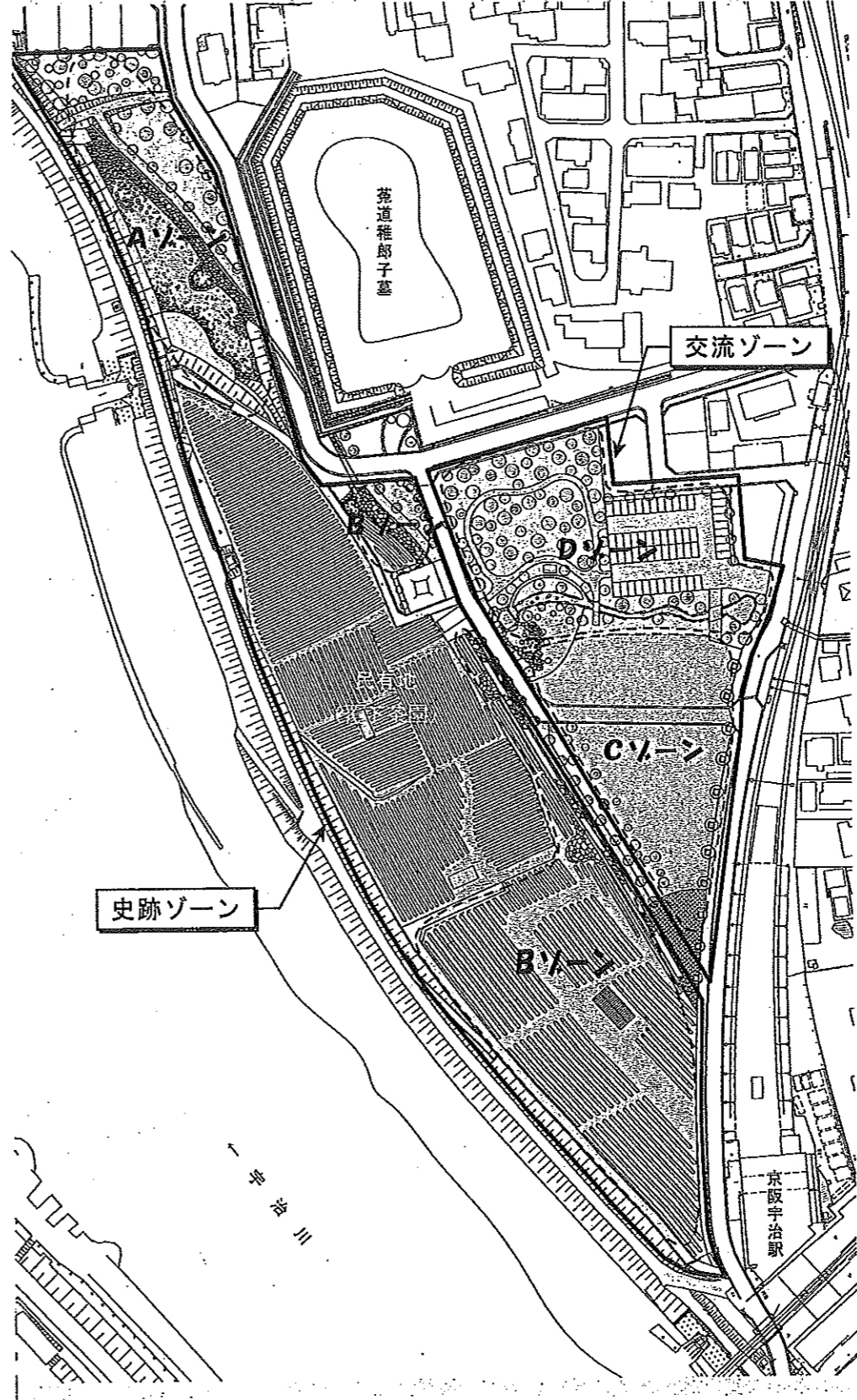


	調査年度	検出した遺構
史跡宇治川太閤堤跡	① 平成19年度	石積み護岸、石出し、杭出し
	② 平成20年度	庭園遺構、杭出し
	③ 平成19年度	杭止め護岸、石出し
	④ 平成21年度	段丘崖、石出し
	⑤ 平成21年度	石出し
	⑥ 平成23年度	レンガ窯跡2基
乙方遺跡	⑦ 平成5年度	弥生～古墳時代集落跡
	⑧ 平成5年度	段丘崖、レンガ溜り

護岸の構造

遺跡を活用する ～整備計画の概要～

史跡宇治川太閤堤跡は、世界遺産である平等院や宇治上神社により観光客で賑わう宇治の中心部にあり、史跡を活用した公園を整備すると共に、隣接地に宇治の歴史や文化、宇治茶の情報を発信する施設の整備を行うことで、多くの人々が憩い、賑わう宇治の新たな観光資源となることを目指しています。



- 【史跡ゾーン】**.....
- 秀吉の時代の壮大な遺跡を体感
 - Aゾーン
 - 太閤秀吉が築堤した壮大な土木遺構を再現します
 - 川を模した水辺空間を整備します
 - 茶樹に親しめる茶園を演出
 - Bゾーン
 - 太閤堤が造られ、時間の経過とともに砂地ができ、茶園として利用される時代を再現します
 - 茶摘体験など、茶樹は活用（使用）することを検討します
 - 誰でも間近で見ることが出来る茶園を目指します
- **【交流ゾーン】**
- 新たな発見とくつろぎを提供
 - Cゾーン
 - { 様々な機能を持った施設の整備を検討しています }
 - 宇治の歴史・文化を知り、体験できる施設
 - 憩い・くつろぐことのできる施設
 - 観光情報を知ることが出来る施設
 - 癒しと親水の空間を創造
 - Dゾーン
 - かつて宇治川に流れ込んでいた小川を想定した整備を行います
 - 菟道稚郎子墓の森との調和を図り、高木による樹林地や中低木の群落、草地による修景を行います
- ※この図は土地利用計画を示したものであり、土地所有者等との協議が完了したものではありません。